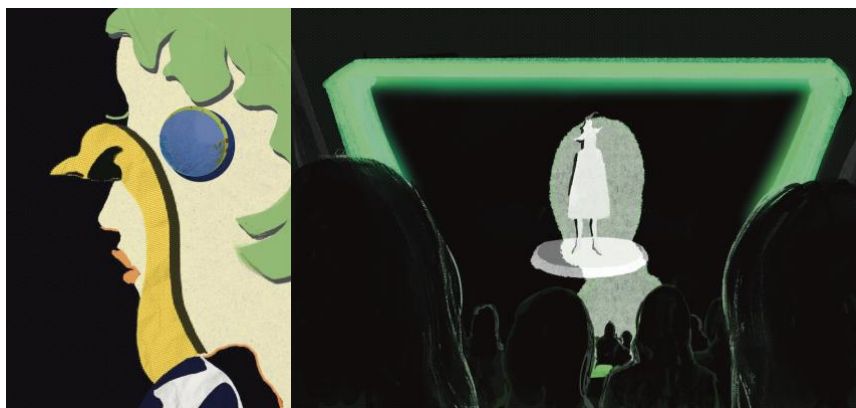
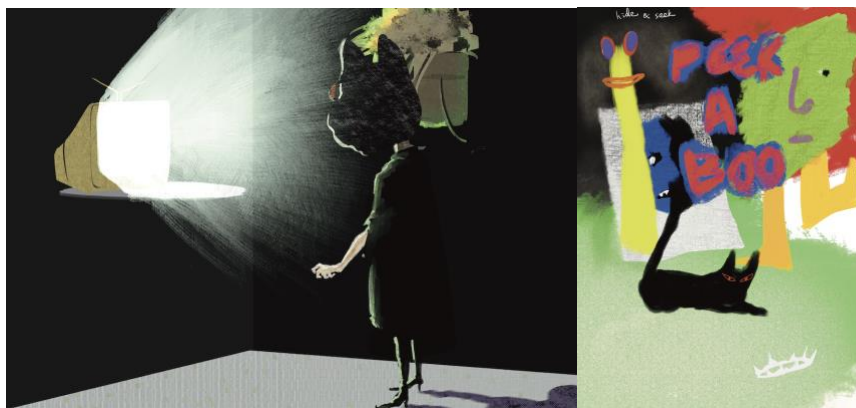


孫 宇清

SUN Yuqing



Televangelism Macabre

デジタル、紙

Televangelism Macabre

Televangelism

このシリーズは、魔女狩りをモチーフに作品を作りました。元々中世紀の欧米諸国にあった恐ろしい風習の本質に潜んでいる異端へのステレオタイプの考えは、社会的と宗教的な背景が影響していて、そこにまだ色々なストーリーがあると思える。大衆が異端として視されたものや社会的な少数派は、いまだに恐れと不寛容の象徴と見なされることがよくあります。私たち人間は、異なる信念、価値観、性的指向、人種、ジェンダーなど自分とは違う生き物にその警戒感、その時代の思想は現代の人間にも漏れなく影響されていることを示している。特に現代人に一番影響しているメディアの役割が SNS などの発展につれ、以前より強調されていることで 異端視する風潮が煽った。欧米諸国のキャンセルカルチャーや日本の炎上文化が、似たような 魔女狩りは現代の私たちの生活にも存在している。そこに注意を喚起するを考えながら、二つのテーマに分けてこのシリーズ「Televangelism」を製作しました。本来の意味では、昔キリスト教界の公式と非公式の伝道師がをテレビ放送の番組で一般人に宗教活動を宣教していること。一世を風靡したそれが現代社会で再び流行になった今、その形だけを模倣して、一部分の作品は女性の形をしているクリーチャーを主人公にしました。彼女たちが不本意のまま、カルチャーの伝道師みたいにならなくてもテレビの中で見つめられ、書かれた台本に沿って世間のステレオタイプを演じている。そこに監視カメラの目線を携わって、視覚で観衆の感覚を操縦ために心理的なプレッシャーを与える。その反面、他の作品は人間離れの生き物が主役として使え、人間の殻から抜くと本性をあけすけに暴くことを描いた。単なる女性にこだわるホラーストーリーではなく、個体にこだわらず、現代社会をに生きているうえで全員共通の恐怖を再構築するシリーズにした。似たような思考パターンで、同調圧力に沿う傾向の人は無意識的に赤の他人にレッテルを貼る最後、自分もいつか異端になるエンディングというアイロニーもオブラートに包んで表現した。